

みんなでささえあう ほっとなお正月

目標額
440万円

ほっ!



ほっ!

運動期間: 12月1日~31日

平成26年度

歳末たすけあい募金

お願い

戸別募金→1世帯**300円**・職域募金→ひとり**300円**を「^{めやす}目安」としています。

※募金は個人の自由な意志が尊重されます。よって金額を限定したり、強制するものではありません。
※歳末募金は、市民の市民による市民のための運動です。集められた募金はすべて沖縄市で活用されます。

今年も皆さまのあたたかなご支援をよろしくお願い申し上げます。

沖縄市共同募金委員会: 沖縄市住吉1-14-29 ☎937-3385

昨年(平成25年度)の募金実績は次のとおりです。ご協力ありがとうございました!!

内 訳	金額 (円)	世帯数
歳末義援金	3,484,000	242
法外援護金	308,869	15
ふれあいの まちづくり事業	30,619	—
福祉まつり	241,018	—
島マス記念塾	1,142,392	—
小 計	5,206,898	257
配分調整額	670,439	—
合 計	5,877,337	257

【歳末義援金】失業や病気など、さまざまな理由で生活に困っているご家庭に対して、年末年始を明るく過ごしていただくよう応援する費用です。

【法外援護金】現行制度による緊急対応が難しい生活困窮者に対し、応急的に支援を行う費用です。

【ふれあいのまちづくり事業】地域住民によるふれあい・支えあいを目的とした福祉ネットワークづくりを各自治会単位で進めています。例) SOSプザー事業、福祉連絡会、フードバンク支援事業など。

【福祉まつり】本市の福祉一大イベント「福祉まつり」は、市内の福祉施設・団体の活動の発表の祭典として、盛大に催されています。

【島マス記念塾】「チムグリサン」(施しが必要な人を見て見ぬふりするときの我が心の痛み)を信条とし、戦後福祉の母と呼ばれた故島マスの精神哲学を継承することを目的とした次代の人材育成塾です。現在22期。

【配分調整額】上記のほか、福祉支援費や災害対策費など、不足なく補うことができるように配分調整する、過年度からの繰り越し金です。

根拠法: 社会福祉法 第10節共同募金 第112条~124条(税制上の優遇措置の対象となっています。)

ひとり一品運動

ご家庭の食料品を「おすそ分け」ください。

「フードバンク」をご存知ですか??

それは「食料銀行」のことです。まだ食べられる安全な食料を地域の皆さまから分けていただき、食べ物を口にできずに困っている人々に提供する活動です。(*^_^*)

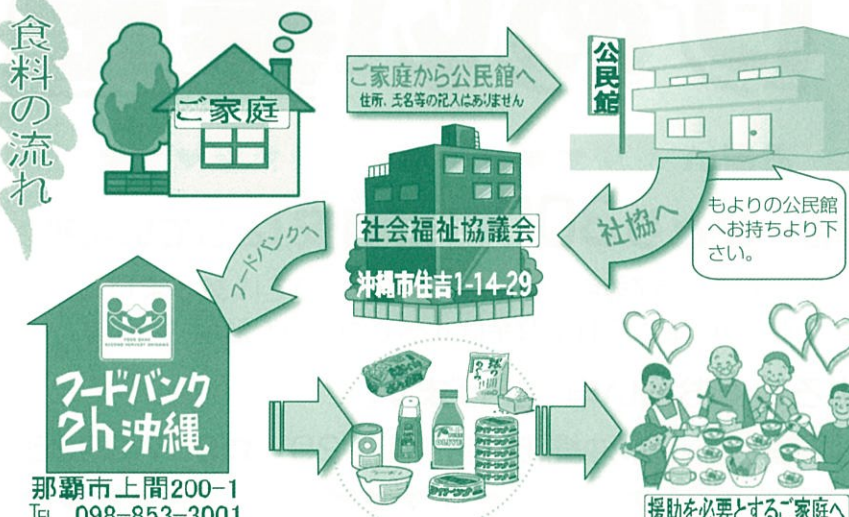
人も食べ物も救うことができる、新しい「食のリサイクル」、それが「フードバンク」です。

沖縄市社会福祉協議会では今回も「フードバンクセカンドハーベスト沖縄」の活動に協力します。

来る年末年始に寄せられる「お歳暮」・「お年賀」などから、おすそ分けできるものがございましたら、もよりの公民館などへお届けいただきますよう、心よりお願い申し上げます



～もったいない～ から ～ありがとう～



受付期間 2015年1月 **6日～20日**

★お問い合わせ★
沖縄市社会福祉協議会 ☎937-3385
 もしくは、もよりの公民館まで

※土・日・祝日は休館日です。また、寄付は午前10時～12時、午後1時～4時までをお願いします。
 ※食料を寄付する方および食料の提供をうける方の個人情報を求めたり、明らかにすることはありません。あらかじめご了承ください。

地域力で「食の福祉」

食料品は、賞味期限が1カ月以上残っているもので、未開封かつ常温保存が可能なものです。

- ①お米 ← 一番人気!
- ②缶詰 ← 何でもOK!
- ③乾麺 ← これも重宝
- ④調味料類
- ⑤インスタント食品など

※お米だけは、透明な袋に入れて、小分けにしてもOKです。



フードバンクで集まった606kgの食料を前に支援を感謝する関係者＝沖縄市住吉、市社会福祉協議会

「沖縄」品質に問題のない食料を集め、食事に困る人に提供するフードバンク運動を進めていた沖縄市社会福祉協議会(嘉陽幸吉会長)は28日、運動期間の2週間から集まった計606kgの食料をNPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄(那覇市、奥平智子代表)に寄贈した。フードバンクは、包装の傷など廃棄される食料を企業から寄贈してもらったが主だが、同市社協では市内37自治会を通じて「おすそ分け」を各家庭に呼びかける「地域の善意」で食料を集めた。奥平代表は「地域主体の取り組みは聞いたことがない。各地でこうした支援が広まってくれればありがたい」と感謝した。(新崎哲也)

自治会協力フードバンクに606kg

市社協は、市福祉まつりなどでフードバンク活動を実施していたが、予想以上に家庭からの食料提供が多かったため、全自治会の協力を得て、今年11～25日に米や缶詰、乾麺などの提供を呼びかけた。その結果、お歳暮の品々や袋に入ったお米などが公民館に届けられ、同NPOへの1回の寄付としては最重量の606kgに達した。提供者からは「おなかのすいた人を支援するという目的がはつきりしていて参加しやすかった」との意があったという。支援が集まる一方、同社協は「食事する金もない」との相談が相次ぎ、食料はすでに10世帯に配布した。同市社協の上原建次相談支援担当は「不況で職を失い実家に戻ったが実家も困窮して、家族で食事できないケースもあった」と語り、「社協でフードバンク活動を抱え、こうした家庭の把握ができる。日頃の寄贈に加え、お中元やお歳暮の時期には1人一品運動を呼びかけた」と話した。

また、同社協の嘉陽会長も食料を通じ、人が人を支える新しい福祉の形。提供者には日々この地域活動に参加し若い子育て世代も、公民館が運動の中心となることで地域コミュニケーションの再開につながるのではと期待を込めた。

沖縄市社協贈る